

## Voice 04

### 生物多様性に ESDの視点を加え 愛知目標を達成したい

国連生物多様性の10年  
市民ネットワーク

<http://jcnundb.org/>

私たちは2011年にスタートした「国連生物多様性の10年」で掲げた「愛知目標」の達成を市民主導で進めるネットワークです。

2014年10月に韓国で開かれた「生物多様性条約COP12」には、私たちのネットワークから85名の関係者が参加し、半数以上は20～30代の若者でした。これ



COP12では北東アジアの若者たちとの交流も深まった



琵琶湖の「魚のゆりかご水田協議会」では幅広い視点で生物の多様性を守っている

は、COP12に向けて、各地で勉強会を開き、次代を担う若者たちに生物多様性の重要性をアピールしてきたことによる成果です。

サイドイベントでは生物多様性と第一次産業や文化との関わりについて発表しました。たとえば、琵琶湖では水質の改善だけでは魚が増えませんでした。魚道で湖と田んぼをつなぎ魚の産卵場を確保するとニゴロブナが復活し、鮎寿司文化の保存にもつながりました。

生物多様性の推進にも、“自ら学び課題解決できる人を育て” ESDの考え方は重要です。2020年の愛知目標達成に向け、ESDの視点を大切に、頑張っていきたいと思います。

(代表 坂田 昌子さん)

## Voice 05

### 行政区を越えた「流域」で 地域の資源や課題を 共有し、解決を目指す

中部ESD拠点協議会

<http://chubu-esd.net/>

国連大学が認めたESDの地域の推進拠点RCE\*は世界に127カ所あり、うち6カ所が日本にあります。中部ESD拠点協議会は東海・中部地域のRCEで、教育機関・NPO・行政機関・企業など約80団体が加盟しています。

世界会議までの3年間、私たちは東海・中部地域を「伊勢湾と三河湾に注ぎ込む



ESD推進中部モデル。「水がつながる人々の暮らし」をテーマにESDを進めていく



答志島では、流下ゴミ解決のためゴミ拾いや上流の森林整備を行っている

12河川の流域」と捉え、さまざまな活動を展開してきました。その一つ、「伊勢・三河湾流域圏ESD講座」では、3年間で100回の講座を開き、各流域が持つ資源と課題を明らかにしました。

たとえば、三重県答志島では伊勢湾流域から流れてくるゴミが問題になっているため、ゴミ拾い活動や上流域の住民との対話による解決を模索してきました。世界会議ではこれらの事例発表やESD推進のための「流域圏ESDモデル(中部モデル)」の提言を行い、ポスト「ESDの10年」を考えました。

今後は講座で抽出した100の事例を、学校教育や地域のESD推進に活用したいと思います。

(事務局 影浦 順子さん)

## Voice 03

### ESDの実践内容を 自己評価するツールで 取り組みを深めたい

(特非) 開発教育協会

<http://www.dear.or.jp/>

私たちは、地球上のあらゆる格差・環境・貧困などの問題を解決するために、NGOや教育機関、民間団体などとともに開発教育やESDの普及、政策提言などを進めてきました。

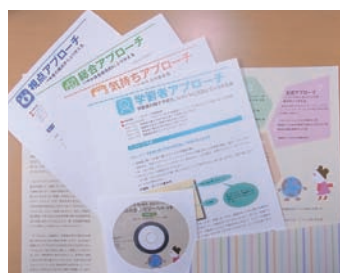
世界会議では「ESD政策への市民参加に関する提言」を配布、「あいち・なごや宣言」に「市民の参加」を盛り込むことができたほか、「ESD・開発教育実践者のためのふりかえりツールキット」を頒布しました。これは、ESDの実践が持続可能な社会に役立っているかどうかを自己評価するツールです。



ブースでは開発した教材とともに開発教育の紹介も行った

併催イベントではセミナー「マイノリティの視点に立ったESD」を実施、参加者から「自分の関わる問題がESDに直結していると実感した」と共感の声が上がりました。ESDの視点によって、それぞれの地域に開発をめぐる問題があることに気づき、解決のための取り組みに人々が関心を持つきっかけになりました。この変化を今後の活動の推進につなげていきたいと思います。

(事務局次長 西 あいさん)



自己評価用ワークシートとCD

地球環境基金の助成は、地域で世界で、未来をつむぐ活動を支援しています。日本でESDを推進するために中心となって活動してきたESD-Jをはじめ、地域と世界を結ぶ活動、開発教育、生物多様性保全など、多様な活動を行ってきた助成団体に、これまでの成果や今後の展望を伺いました。

# 人をつなぎ、地域を結ぶ ESDのこれから

## Voice 01

### コーディネーター研修で ESDによる社会変革を さらに進めていきたい

(特非)「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)

<http://www.esd-j.org/>

ESD-Jは市民の力でESDを進めるネットワーク組織です。NGO・教育関連機関・自治体・企業など多様な主体がつながり、ESDを推進するための政策提言をはじめ、国内外のESDの事例収集や研修など、ESDの普及啓発に取り組んできました。この10年で、全国のESDの実践とビジョンを政府と共有できたことは一つの



11月のESD世界会議では、公式サイドイベントとして、「日本のESD推進における市民イニシアティブ・市民社会と企業セクターのパートナーシップ」を発表



ESDコーディネーターを養成する実践セミナー風景

大きな成果だと思っています。

11月の世界会議のサイドイベントでは、全国の多様な主体と議論して作った提言書『地域が牽引するこれからのESD』を発表し、その内容は、世界会議の公式イベントにおける政府のスピーチでも紹介されました。

ESDの10年を未来につなげていくために2012年度から始めた「ESDコーディネーター研修」は、公民館や市民活動センターなどにいる地域のコーディネーターにESDの視点を共有し広げていくことをねらいとしたものです。地域の多様な主体が連携・協働することによって、ESDによる社会変革をさらに進めていくことができればと願っています。

(事務局次長 村上 千里さん)

## Voice 02

### ツールの開発や ワークショップを通じて ESDの輪を広げる

(特非) えひめグローバルネットワーク

<http://www.egn.or.jp/>

私たちは愛媛の人と世界の人々がつながり、地球規模の課題に取り組む拠点づくりを目指しています。放置自転車をモザンビークに送り武器と交換するプロジェクトの支援のほか、「環境省四国EPO」の運営事業を通じて多様な組織とともにESDに取り組んできました。

11月の世界会議では「環境省ユニバ



ESDの文字や木や生き物の刺繍を集めて1枚のタペストリーに



活動のさらなる広がりを目指して、参加者に「ESD風呂敷」が配られた

ESD大会」の成果発表を行うサブイベントを主催。岡山の会場と外部拠点をスカイプでつなぎ、学生から社会人まで約100名が参加しました。モザンビークで作ったESDの刺繍を買い取り日本でタペストリーに仕上げる「ESDリレー刺繍タペストリー」の展示や、学生たちがデザインした「ESD風呂敷」を配布。参加者からは「NPOに興味を持った」「国際協力のために英語を勉強したい」といった声も上がり、未来への1ステップになったと嬉しく思っています。

今後も、タペストリーや風呂敷を学校の教材やポストカードに活用したり、事務所に新設した研修室を使ってESDを推進していきたいと思っています。

(事務局次長補佐 高山 莉菜さん)